

海外勤務

在ジュネーブ国際機関日本政府代表部
二等書記官(東京税関採用)

杉浦 かおる

【平成16年11種行政】

世界に羽ばたき、
可能性を広げよう

税関職員の仕事、それはどのようなものを想像されますか？空港で制服を着て麻薬を取り締まっている人達でしょうか？実際、税関では日本国内での輸出入通関業務を始め、取締り業務など様々な業務がありますが、昨今の複雑化した世界の経済情勢を背景に、税関職員が在外公館等に赴任し、専門知識や経験を生かして活躍できる機会が増えています。

私が赴任しているスイス・ジュネーブには、国際連合欧州本部、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）等様々な国際機関が集まっています。私の勤務先である在ジュネーブ国際機関日本政府代表部は、ジュネーブに所在する様々な国際機関に対し、日本政府代表として会議に参加することが主な業務です。日本政府代表部というのは外務省の組織ですが、様々な国際機関での議論に対応すべく、外務省以外にも各省庁から専門知識を持つ職員が外交官として出向しています。

その中でも私はWTO（世界貿易機関）を担当しています。WTOとは、多角的貿易体制を維持し、貿易に関連する様々な国際ルールを策定すること目的に1995年に設立された国際機関です。WTOでは世界貿易を円滑に行うためのルール作りに関する会議が日々行われており、その中には原産地規則委員会や関税評価委員会など、税関業務と深く関わる会議も存在しています。私はそれら税関に関連する会議に出席し、日本の考えを発言すると共に、アイデアを提供する等して議論に貢献するよう努めています。とはいえ、私の仕事は会議に参加することのみではありません。会議前には、会議の各議題に対し、日本としてのスタンスを決めるため、連日東京と話し合い、他国の考えを聞くため、同じくWTOで会議に参加する他国の同僚達と協議

し情報収集を行います。このように綿密な事前準備を行った上で会議に臨むわけですが、その結果少しでも議論が日本の有利なように進んだ際には、何ともいえない達成感があります。

なお、WTOは164ヶ国・地域が加盟する国際機関ですが、策定されたルールをスムーズに実施できない国（主に発展途上国）も多く存在します。そのような中、日本の税関システムは様々な分野で先進的な制度を運用しているため、日本の知見を求められることが多々あり、日本税関に対する期待の高さを実感しています。このように世界の中でも進んだ制度を持つ日本税関は、海外で活躍するための知識を得られる魅力的な職場です。更に税関は在外公館の他にもWCO（世界税関機構）やICA（国際協力機構）など、海外赴任をするチャンスにも恵まれています。自分の可能性を広げたい方、是非税関の扉をたたいてみてください。



My Private Time



休日は、近場の国へ旅行する事が多いです。ジュネーブ空港からはLCCも多く運航していますし、ジュネーブに近いフランスの街ならば車でも行けてしまいます。夏はビールの美味しい国への旅行、春はチューリップを見に行く、週末はマルシェで魚介類を食べるなどテーマを決めて楽しんでいます。また、気候の良い季節には、職場の方のお家でバーベキューを楽しみます。